

秋田県大館市・茨城県常陸大宮市友好都市協定締結調印式

～400ときを超えて



400年の時と空きを超えて——

茨城県常陸大宮市と 友好都市協定を締結

大館市は1602年の「佐竹氏の秋田への国替え」を縁として、10月21日に茨城県常陸大宮市と友好都市協定を結びました。今後は文化や教育、観光、産業などさまざまな面での交流を通じて、常陸大宮市と連携しながら互いに魅力あるまちづくりを進めます。

大館市と常陸大宮市のつながり

歴史

1602年に常陸国ひたちらのくにを支配していた佐竹氏が秋田に国替えとなりました。初代大館城代となる小場氏（佐竹西家）の本拠地は大宮町（平成16年の市町村合併で常陸大宮市となりました）でしたが、佐竹氏とともに秋田へ移ってきました。

小場氏は大館城周辺の土地に部垂、長倉、赤館など、自分の故郷にちなんだ名前をつけたほか、常陸から移住したとされる宗福寺や遍照院、一心院、大館八幡神社、部垂八幡神社なども建立されました。

教育・文化

平成9年に本市部垂町に住む小学生が町名の由来に関心を持ち、旧大宮町を訪れたことをきっかけに、本市と旧大宮町との交流が始まりました。

以後、小学生同士の友好交流会や市文化財保護協会による訪問、歴史民俗資料館で大館佐竹文物展が開催されるなどしてきました。

行政

平成14年に小畑前市長が旧大宮町を表敬訪問しました。

また、平成26年7月10日に常陸大宮市との間で防災協定を締結しました。